

第6回 JR古賀駅周辺開発推進協議会 議事要旨

日時	令和8年3月4日(水) 10時00分～12時00分		
場所	リーパスプラザこが2階 中会議室		
出席者 (敬称略)	委員	福岡大学工学部社会デザイン工学科 教授	柴田 久
		熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 教授	星野 裕司
		花鶴タクシー有限会社 代表取締役	保井 亨
		株式会社古賀タクシー 代表取締役	後藤 正典
		九州旅客鉄道株式会社 総合企画本部経営企画部交通・開発計画 副課長	高橋 拓大
		西日本鉄道株式会社 自動車事業本部地域ネットワーク担当課長	池田 舞
		(代理)福岡県粕屋警察署 交通総務係長	佐田 晃一
		古賀市行政区 古賀東区長	高原 伸二
		古賀市行政区 古賀北区長	荒牧 明文
		古賀市行政区 古賀南区長	馬場 實
		古賀市商工会 会長	藤井 博文
		福岡女学院看護大学 事務部長	吉松 朋之
		ニビン醤油株式会社 総務部 取締役総務部長	末松 裕也
		(代理)独立行政法人都市再生機構九州支社 都市再生業務部事業企画課長	百合草 真人
	事務局	建設産業部古賀駅周辺開発推進課	
オブザーバー	株式会社日建設計	大友 武臣 大川 雄三 小林 拓斗	
	株式会社 RFA	藤村 龍至 武智 大祐	
	株式会社 オオバ	浅野 耕平 仲松 孝洋 木村 美咲	
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・座席表 ・資料1 委員名簿 ・資料2 次第 ・資料3 古賀駅西口周辺整備社会実験の報告 ・資料4 古賀駅西口駅前広場整備案 ・資料5 古賀市駅前憩いの広場の検討案 ・資料6 育てる広場プロジェクト ・資料7 【参考】JR古賀駅東口周辺地区の土地利用見直しに伴う古賀駅五楽線の変更について(第5回協議会資料) ・資料8 公園のゾーニング及び動線計画の見直し ・資料9 JR古賀駅周辺官民連携ウォークアブル社会実験の報告 ・資料10 デジタルプラットフォームを活用したまちづくりワークショップの報告 ・資料11 古賀駅前をテーマにしたワークショップについて ・参考資料1 古賀駅西口周辺整備社会実験の報告(参考資料) ・参考資料2 古賀駅西口周辺整備社会実験(まとめ) ・参考資料3 【参考】JR古賀駅東口周辺地区まちづくりガイドライン抜粋 		

<議事要旨>

1. 開会
2. 主催者挨拶
3. 説明および意見交換

(1)JR古賀駅西口周辺整備について

【意見交換】

・今年度実施した(交通・沿道利活用)社会実験の報告(資料3、参考資料1、参考資料2)

(柴田会長)

自動車の通過交通量は減少したが、誤進入や局所的な渋滞が発生したことは今後の課題である。アンケート調査では、今後もこのような取組を続けて欲しいという声も多かった。また、参考資料2を見ると分かるように、駅前という拠点に人が集まる効果を実感できる社会実験だった。

(委員)

社会実験からはいろいろな可能性を感じた。自転車の件で質問だが「商店街内の通行規制によって自転車が通行しにくかった」という意見が出ているが、将来自転車の規制は何かされるのか、また今回どのような様子があったかなど教えて欲しい。

もう一点「駅を降りて北側に向かう人が多いことから駅とサンリブの結びつきが強くなった」とあるが、サンリブ方面に人が流れているだけでサンリブとの結びつきが強いと言えるのか。

(事務局)

商店街内の通行規制では柵を設置したのでそのような意見が出たと想定される。車を通り抜けできなくする対策とあわせて、自転車が通行するための幅の確保というのは検討すべき課題と思う。駅前においては「おしチャリ」をお願いする看板の設置や声かけを実施したが、なかなか理解が得られなかった。駅前広場の設えを工夫することなどにより、自転車に乗ったまま通り抜けしにくいような空気感を醸成していくことも大事と考えている。

サンリブとの結びつきについて、平日も休日も強くなっている結果が出ており、周辺の大きな変化で言えば、一昨年にサンリブのリニューアルがあったのでその影響があったものと考えている。また、イベントを実施した休日では、サンリブに車を止めて駅前に来るという方が多かったことも要因の一つと考えられる。

(柴田会長)

独自の分析では周辺の歩行環境が悪いと感じている人ほど、駅前広場に対する評価が低いという結果が得られた。駅前広場だけでなく、周辺の歩行環境改善等の整備も重要だと思う。

(委員)

人も多く集まったいいイベントだったと思うので、今後もイベントを継続して欲しい。一方、イベントがない時も、人が集まるような魅力ある商店街にするためにどうすればよいか検討していく必要がある。

(事務局)

次年度も別の形で社会実験の実施を検討しているが、今後は行政として継続的にイベントを実施するのではなく、補助制度やチームづくりのサポートなどを中心とした支援を実施していきたい。

(柴田会長)

イベントを実施することで疲弊してしまう自治体も多いため、イベントをしたいと思っている住民や民間事業者が主体的に実施できるような環境を整えていくのが重要と思う。

(委員)

古賀駅前交差点の右折で局所的な渋滞が生じた時間帯はいつだったか。古賀駅前交差点では古賀駅に向かう交通量が増えているように見えるが、その先の断面(地点4)では古賀駅に向かう交通量が減った結果となっているがなぜか。古賀駅前交差点に立て看板や誘導員を配置したか。

(事務局)

ピーク時間帯は夕方である。古賀駅前交差点とその先の断面(地点4)の間に銀行と時間貸し駐車場の出入り口があり、その出入りが多かったためと想定される。古賀駅前交差点に誘導員は配置していない。

(委員)

西口エリアへの通過交通量抑制に対して一定の成果を確認したと記載しているが、目標値などはあるか。

(事務局)

明確な数値は設定していないが、従前、商店街内の線路沿いの道に通過交通が多かったため、どの程度減少させられるかを検証したものである。誤進入車両への対策や迂回車両による局所的な渋滞が見られたことなどの課題については今後対策を検討していきたい。

・古賀駅西口駅前広場整備案(資料4)

(委員)

約40年前に駅前広場の都市計画決定をされたが、まだ何も変わっていない。当該範囲での建築にあたっては様々な制限があり懸念がある。テナントを含めた立ち退きも簡単ではない。

以前の協議会で、現状の駅舎にエスカレーターをつけると聞いていたが、その話はどうなったのか。この計画だと当面出来ないということになると思うが、先行してエスカレーターを設置すべきと思う。

(事務局)

約40年前に駅前広場が狭く再整備が必要として都市計画決定している。今回の駅前広場の再整備は既存の都市計画の範囲を踏襲しながら進めるものであり、新たに範囲を広げるものではない。エスカレーターについては自由通路の再整備にあわせて設置する計画である。

(委員)

既存の駅舎にエスカレーターを設置するという話だったはずではないか。

(事務局)

過去の経緯については確認するが、駅前広場や自由通路の再整備にあわせてエスカレーターを設置する考えである。

(委員)

エスカレーターを降りた先の歩行者動線の幅員はどれくらいか。

(オブザーバー)

約6メートルである。

・古賀市駅前憩いの広場の検討案(資料5)

・育てる広場プロジェクト(資料6)

(委員)

運用の話になるが、スケートボードはしているのかとか、ボール遊びをしているのかとか、こういった広場でよく問題になることは考えておいた方がよい。

(事務局)

いただいた意見も含め、今後のルール作りについて検討していく。

(委員)

憩いの広場と商工会館の間の道は車両通行止めになるのか。

(事務局)

全ての車両を通さないというわけではなく、脱着式ボラードの設置を検討している。今後、地元の方とも協議しながら、常設でやるのか、時間帯で設置するのか等、意見交換しながら通り抜け出来ないような工夫について検討していきたい。

(2)JR古賀駅東口周辺整備について

【意見交換】

・土地利用計画及びJR古賀駅東口周辺地区まちづくりガイドラインの見直し(資料7、参考資料3)

・公園のゾーニング及び動線計画の見直し(資料8)

(3)その他

【意見交換】

- ・JR古賀駅周辺官民連携ウォークアブル社会実験の報告(資料9)
- ・デジタルプラットフォームを活用したまちづくりワークショップの報告(資料10)
- ・古賀駅前をテーマにしたワークショップについて(資料11)

(委員)

ワークショップに協議会委員が入るのは問題ないか。市民に自由に話していただく方が良いのではないか。また、3回目のシンポジウムだけ参加してもいいのか。

(事務局)

広く市民に募集するほか、社会実験に協力いただいた事業者の方にもお声掛けしている。委員の皆様にもぜひご参加いただければと思っている。シンポジウムのみ参加も問題ないと考えている。

(柴田会長)

全体を通してなにかあればお聞きしたい。

(委員)

西口に新たに建物を建てる人に対して、市は西口の再整備計画をどこまで説明しているのか。

(事務局)

現状の建築確認申請は一般的な手続きでしか実施出来ないため、行政と民間が連携して情報発信をしながら周知していきたいと考えている。

・今後のスケジュール

(事務局)

次回の協議会は今年の8月頃を予定している。

4. 閉会

以上